



屋内型コンポストを使ってみる

我が家の台所の生ゴミは、果物の皮や野菜屑などが殆どで、いわゆる食べ残しなどは、殆ど無い。この生ゴミを容器に集め、18リットルのポロエチレン製の蓋付き容器（コンポスター、コンポスト）に移し、適量の発酵資材（ポカシ）を加えて、密封する。3人家族では、3週間程度で一杯になる。満タンになった容器を野外に移し、発酵を促して堆肥（コンポスト）化する。3個の容器を回転しながら使っていると、発酵期間が、1ヶ月半となり、その後は庭に穴を掘って埋め、本格的な堆肥化を計る。実質的には、殆ど余計な労力を掛けないで、生ゴミの資源化が達成できる。

当初、畑や庭に据え置くコンポストや、段ボールコンポストのことは知っていたが、室内で使うことに対して、不衛生で、手間暇がかかる、うっとおしい作業ではないかとの先入観があった。しかし、いざ決心して作業を始めてみると、以前の生活よりはるかに衛生的で、作業も簡単で、健康的な生活ができ

ることに気がついた。幸、我が家では、堆肥化の最終段階を、庭に直接穴を掘って埋めることで解決しているが、コンポスト内での発酵を効率化するには、一工夫必要だと思っている。野外の直射日光下では、容器の劣化が早まることが予測されるので、容器の置き場にも工夫が必要だ。



以前は、生ゴミは流しの水切りネットに集め、小さなポリ袋に入れて、大きなポリ袋を装着したゴミ箱に移し、回収日までは室内に保管していた。時には袋に穴が開き、汚水が漏れたり、夏季には異臭を発することもあった。これらは焼却場に運ばれ、大量の石油を使って燃焼される。生ゴミに含まれる炭素を、全て二酸化炭素にして空気中に放出する。その時使われる石油に含まれる炭素も、全て二酸化炭素になって空気中に放出されることを考えると、日

頃、「生命の循環」を口にするものとしては、精神的に不健康な状態となる。ほんの少しの努力で、これらの生ゴミが、植物のための有用な堆肥になるのである。

自分の生活圏に畑があれば、生ゴミは畑で処理できるが、都市型生活では、なかなか難しい、しかし、都市型生活圏でも、このような生活スタイルを個人から地域へ、市町村から県、国へと広げ、様々な形で工夫を重ねてシステム化を図れば、地球環境の改善につながるのではないかと考える。